

オモトーフ。だより

面瀬小活動報告 No.2 (文責谷山)

2019/12/23

■7/11にプレオープンした面瀬小・学校ビオトープの続報を知らせたいします。夏から秋、そして冬と季節が移りゆくごとに変化していく池の様子や、水辺にやってくる生きもの暮らし、それを見にやってくる子どもたちの様子など、とても興味深いものがありました。



「おーっ。いろんなのがいっぱいいる。」 8月末 夏休み明けの観察

■夏休みに入ってから理科教材で扱ったクロメダカを池に10匹ほど放しました。休み明けに確認するとなんともすごい数のメダカの稚魚が。推定200匹。池が小さいので適正な数に落ち着くと思われますが、生育に適した環境だったのでしょう。やがて、シオカラトンボ、ギンヤンマが産卵に訪れました。3年生の観察カードには、調べたことも加えて詳

しく記録されていました。子どもたちはヤゴも確認していました。いずれ池の大きさに合った数に落ち着くものと思われます。

■その後、オニヤンマがパトロールに訪れ、アキアカネが産卵に来ていました。ほんのちょっと水辺環境を整えただけで、こんなにもたくさんの生きものがやってくる、この池のポテンシャルの高さに驚きました。

1 夏休み明け 8月末の様子



■ひと月ほどの間に草が茂り、水中の石や砂に藻が付いて池らしくなってきました。メダカが繁殖したせいか、うようよいたプランクトンがそれ程目立たなくなっていました。

■崖下の U 字溝をせき止め、そこに生きものを入れてみる子どもたちも。池ができる前と同じように、U 字溝は子どもたちの自由な活動が見られました。

■池の使い方には

「池の中の生きものをおどかさないこと」
「安心して暮らせるように捕まえたり、追いかけて回さないこと」等を話し、U 字溝との使い分けをさせています。

2 植物の適応力の強さ

■「あの植物は植えたんですか？」何人かの人に尋ねられましたが、池の縁を整えた以外手を入れていないのに、水辺が好きなカキツバタがぐんぐんと伸びてきました。水中にはオモダカやいろんな植物が顔を出しました。

■池の岸辺も、いつの間にか水面に茎を伸ばしていたり、草丈を伸ばし他の草の勢いを抑えたり、植物の生き残りの工夫が見られます。

■9月25日には日本ビオトープ管理士会から植物が専門の大山弘子先生（岩沼市）が訪問調査にやってきました。多様性に富んだ環境で興味が尽きない池だと褒められました。元々田んぼを「切り土」した場所であることも水辺環境を整えるのに都合がよかったのかもしれない。



3 安定した池の発展的な整備構想



■9月27日に3年生の川の生物調査の講師として来校した宮教大の棟方先生に、再度ビオトープを見てもらいました。次のようなコメントをいただきました。

「メダカの池にしておくにはもったいないぐらいの池です。」

「湧き水が13～14℃と夏の時期には冷たいぐらいの温度なので、池の温度が上昇しすぎないでいる。冬期間の温度変化も継続して調べてみるとよい。」

「田んぼのように水温が高めの場所が必要であれば、池を拡張してみるのも一つの考え。」

「湧き水を受けた冷たい池に川魚を飼い、下って温くなった水にメダカやミニ水田の稲があるというのがいいと思うが…。」

■棟方先生も気づいていましたが、拡張の希望や期待があっても工事は簡単ではありません。十分に検討する必要があります。

■西側に拡張する構想が落としどころかと思っています。

■冬期休業以降、天候をみながら、カラーコーンで囲っている砂利の部分の片付けたり、子どもたちの通る部分の崩れを補修したりします。春先からは、検討が始まった拡張工事に着手したいと思います。

■また、暖かくなってから、生き物の冬越しがうまくいったのか調べていきたいと思っています。

面瀬小・学校ビオトープの愛称決定！

愛称募集中 名前をつけてね



崖下の湧き水や自然を生かす
 安全で丈夫なものにする
 P T Aや地域の方々の協力で進める
 基本は深さ15~20cmの湿地
 魚の越冬が可能な60~80の深み

崖下の湧き水や自然を生かす
 安全で丈夫なものにする
 P T Aや地域の方々の協力で進める
 基本は深さ15~20cmの湿地
 魚の越冬が可能な60~80の深み

面瀬小学校のビオトープに名前(愛称)をつけてください!

例 ○○ビオトープ、○○ランド、○○池 … などなど

■過日学校だよりでお知らせしたように、夏休みをまたいで募集していたビオトープの愛称が決まり、9月の朝会で子どもたちに発表しました。

オモトープ

■ビオトープ全体の名称を「オモトープ」としました。親しみを込めて名付けてくれました。

- 3年 神谷しいな さん
「おもせのみんながよくつかう所だから」
- 5年 佐藤柚亜さん、畠山永羽くん
「おもせのビオトープ → オモトープ」
- 5年 小松海虎くん、畠山夢花さん
「名前におもせのもしを入れたかった。おもせだから」

おもせー池

■池や周辺の草地、U字溝、畑、草置き場などのビオトープ全体を「オモトープ」としましたが、池そのものを名付けた「おもせー池」も支持を集めました。底から水が湧き出していたし、雨がたくさん降っても溢れない不思議な池でもありません。

- 6年 熊谷柗舞くん
「面瀬の池だから。いろんな生き物のいるおもせー(面白い)池だから」

■とてもよい名前に決まったと思います。オモトープがもっとよい環境になることを願いながら今後も子どもたちと一緒に使っていきますので、ご家庭の皆さんも何かの折にのぞいてみてください。



■3年生の教室前には面瀬川の生き物調査で捕獲した魚やエビ、ザリガニなどが飼育されています。じっくりと観察することで気づきが生まれています。「ヨシノボリ」「ウキゴリ」「ヌマチチブ」など、種類の見分け方も分かっています。

■面瀬川の学習や理科の季節に関連した生物教材の学習が、ビオトープでの観察とうまく融合して子どもたちの興味関心を高めています。

◆ 「おもせー池」の発展的な整備構想

冬期間はなかなか作業が進まないのですが、春から初夏に向けて少しずつ進めていく予定です。

〈ビオトープ基本構想〉

- 崖下の湧き水や自然を生かす
- 安全で丈夫なものにする
- P T Aや地域の方々の協力で進める
- 基本は深さ15~20cmの湿地
- 魚の越冬が可能な60~80の深み

〈ビオトープ拡張構想(案)〉

- 西側に池を拡張する
- 水が行き来するようにする
- 畑の土を肥やす
- 畑の石を除去する
- 剪定した枝等の木材置き場を新設する



全国学校・園庭ビオトープコンクール 2019

面瀬小学校入賞！「日本生態系協会賞」

■昨年ビオトープ整備に向けて助成金をいただいた日本生態系協会主催のコンクールに申し込みました。このコンクールは、学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる、優れた取り組みを行う学校・園を表彰するもので、新年度に専門家の助言を得ながら活動を進めていくことができるのです。

全国学校・園庭ビオトープ コンクール2019



■8月に報告書をまとめて申請。9月にビオトープ管理士による現地調査を受け、11月に「日本生態系協会賞」に入賞したとの報告の電話を受けました。

■7月にプレオープンしたばかりではありますが、面瀬小のユニークな池やその活用の仕方、可能性にお褒めの言葉をいただいています。

- ①湧き水を利用している
- ②多様な生き物がすんでいる
- ③PTA や地域の協力の下で進めている
- ④専門家の助言を得ながら進めている
- ⑤子どもたちの活動が積極的に行われている

などがよかったものと思います。「おもせー池」のある「オモトープ」をさらに良いものにしていきたいと思います。

■具体的な審査結果や今後の活動に向けた助言は年明けにいただけることになっています。

■参加校の中でも際立って秀でていると評価された学校・園は、次の5つの賞になります。活動を積み重ね、面瀬小学校の「オモトープ」もいつの日かこの賞をいただけるといいですね。

文部科学大臣賞	甲賀市立 油日小学校(滋賀県)
環境大臣賞	所沢市立 安松小学校(埼玉県)
国土交通大臣賞	豊田市立 五ヶ丘東小学校(愛知県)
ドイツ大使館賞	富田林市立 新堂幼稚園(大阪府)
日本生態系協会会長賞	富田林市立 青葉丘幼稚園(大阪府)

■面瀬小学校が入賞した賞は、上位5校の次の「日本生態系協会賞」です。学校・園庭ビオトープの、特に優れた取り組みを行うものを表彰したもので、小・中・高30校のうち東北・北海道では唯一面瀬小学校が選ばれています。

幼児教育施設32 小学校22<気仙沼市立面瀬小学校(宮城県)ほか>
中学校2 高等学校6 大学等2

■その次が 優れた取り組みを行うものを讃え表彰する「学校・園庭ビオトープ奨励賞」です。

幼児教育施設8 小学校22 小中学校1 中学校2 高等学校2



2020年2月 表彰式、実践発表

■来年2月には、東京の国立オリンピック記念青少年総合センター（通称オリセン）にて表彰式とポスター発表による実践事例発表に参加してきます。ビオトープの整備と活用の実践事例をまとめる良い機会になりますし、代表教師が発表や他地域の学校・園の方々との意見交流をする貴重な機会となります。それによって今後の「オモトープ」の整備と活用について大きなヒントを得ることができるものと考えています。

■表彰式及び実践発表の様子、令和2年度のビオトープの整備と活用の仕方については、おっってお知らせいたします。

